

令和5年度 第2回学校運営協議会

令和5年11月30日（木）（授業見学・協議）

能勢分校会議室において、第2回の学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員4名、学校側からは准校長、教頭、課長補佐、首席、各系列代表教諭が出席しました。委員の方々には授業見学の後、各系列の取組みの進捗状況や授業アンケート、今後の能勢分校の課題や方向性について議論しました。

内 容

1. 授業見学 13:10～15:00
2. 運営協議会 15:30～16:50
 1. 准校長挨拶
 2. 協議事項
 - ・ 授業見学について
 - ・ 授業アンケートについて
 - ・ 系列の取組み
 - ・ 能勢分校の取組み
 3. 連絡

次回、第3回の開催 令和6年 3月 5日（火）予定

委員からの意見等

【授業見学】

- ・ 1対1の濃密な授業が行われ、多くのことにチャレンジできている。
- ・ ICT機器（タブレット、LAN教室の設備）の技術を活用できている。

【授業アンケート】

- ・ 2年生はICT機器を使用した学習の効果が出ており、3年生は生徒の興味や関心に授業が合っている。各教科で効果のあった学習方法を、全体で共有するように努めている。全学年で、予習・復習が不足しているなど、学習習慣の獲得に改善の余地がある。

【系列の取組み】

- ・ 漢字が不得意な生徒が多いので、漢字検定の受検を促したことで、学習量が増してきた。漢字の知識が定着したら、ICT機器を利用して課題等を課し、興味関心の数値を広げたい。
- ・ 生徒の主体性を尊重し、生徒が教科に興味関心を持って学習することが理想だが、一方で、課題を出すなどしてある程度学習を強制するような導きも大切と考える。

- ・生徒に自由にさせることが創造性を育むわけではない。したいことしかしないのは、学習には繋がっていない。
- ・（課題探究での）高校生の提案を地域で実践し、その環境整備と引継ぎを町が行うのが理想である。
- ・食農流通コースで、小学生と分校 2 年生がブドウの栽培から販売を通して交流できたのが良かった。対人支援コースでは、高校生が小学生を相手に指文字について教える授業を工夫して教えられたのはいい経験になった。探究コースでは、最初は生徒が思うようにさせ、教師が準備段階から指導する必要はないという認識が必要である。
- ・生徒たちには教員以外の外部指導者からアドバイスをもらう経験を多くして欲しい。教師以外から指摘されたことは強く生徒の中に残り、大きな気づきと学びになる。

【能勢分校の取組み】

- ・中学生に行きたいと思われる学校作りが必要である。「地域に残る」というより、「選ばれる」学校にならないといけない。分校生徒たちが学校の良さを発信したいと、SNS を利用し始めたように、生徒たちの手で学校を作り上げていかなければいけない。
- ・小・中学校の教員も一体となり、生徒に分校の良さをアピールしていけたらと思う。
- ・子どもの進路選択には親の意見も大きく反映するため、保護者が分校に何を期待しているかを明確にし、対策を取っていく必要がある。
- ・課題探究の取組みを継続していくことで、地域や企業からも分校の良さが伝わると良い。